

## アラカルト

辰巳青果事業協同組合事務局



木本よしえさん

yoshie kimoto

「居心地のいい組合」  
をめざして

長引く景気の低迷や、販売形式の多様化などにより青果業界も激しい競争に巻き込まれている。食の安全性をめぐる問題や、少子化による売上高の漸減も深刻だ。青果小売業者の団体である辰巳青果事業協同組合（本部・東京都江戸川区）事務局の木本よしえさんは、「このような時代だからこそ、組合の存在感は頼りになります。いつでもあたたかく組合員さんをお迎えしたいと思っています」と笑顔を見せる。

## ●合格して仲間が増えた

木本さんが組合検定試験に合格したのは平成18年。事務局に入って3年目のことだ。

「入職当時、アナログだった代払い制度のOA化を任されるなど、仕事を覚えるのに必死でした」と振り返る。

そんな日々の中で、当時の理事長の勧めがあり受験をすることになった。

「いざ東京都中央会の講習を受けてみると覚えることが多くてそれは大変でした。腱鞘炎になるくらい頑張りました。(笑)」

覚えることをメモにして、自宅のあちこちに張りたりして…。あんなに勉強したのは学生時代以来のことと、とても充実していました」

「組合業務は奥が深く、関連の法律や実務の知識も大切」と感じ、組合についてももっと勉強しなくてはとの思いが芽生えて来ました。

ただ、受験は周囲には「内緒」にしていた。

「落ちたら恥ずかしいから、黙っていたのです(笑) 実際に1回目は失敗してしまい、2回目で合格しました。そして、合格したら、楽しいことがたくさんありました。まずは、仲間ができたことですね。講習や組合士の会合などで、多くの異業種の組合士と出会い、刺激も受けています」

## ●たくさんの人に合格を目指してほしい

木本さんの名刺には、「中小企業組合士」と肩書がある。

「(組合士と)印刷できた時は、嬉しかったですね。よく言われることですが、組合士になってもお給料が上がるわけではありませんし、勉強も難しいので、なかなか取りかかりにくいと思います。でも、実務と知識に本当に自信がつかますから、組合のためだけでなく、ご自分のためにお勧めしたいですね」

特に、若い女性には勧めたいという。

「青果業界も男性がほとんどなので、異業種の女性の組合士と知り合う機会が増えたことも、私にとっては収穫でした。女性同士でいろいろ話せることもあります。情報交換は勉強になりますし、勉強をがんばった甲斐があったなあと思っています。もっとたくさんの女性に合格を目指してしていただきたいです。絶対に役に立ちますよ」

## ●組合の原点を大切に

今後の抱負についても聞いた。

「辰巳青果事業協同組合の取扱高は、おかげさまで各組合員の頑張りにより順調に推移しています。

ただ、どの組合も新組合員の加入者が減少しており、組合員の構成も、一般の青果小売店だけではなく大型量販店・納め専門業者と幅広くなってきていますが、このような多様化にも相互扶助という組合の原点を大切にしていきたいと思っています」

組合と事務所の「居心地のよさ」も重視している。

「辞める組合員さんにも『いつでも事務所にお茶を飲みに来てください』とお声かけしています。お客様をいつも気持ちよくお迎えしたいので、事務所は季節のしつらえを考えたり、丁寧なお掃除も心がけています。もちろんお金はかけられないのですが、それなりに工夫しているつもりです。読者の皆さんにもぜひいらしていただきたいです」

不透明な社会情勢だが、組合が存在感を示すことで、解決できる課題は多い。木本さんのように組合の原点を大切にして活動する組合士が増えることを期待したい。